
嫉妬

風防

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嫉妬

【Nコード】

N2506Q

【作者名】

風防

【あらすじ】

嫉妬心を操る程度の能力、水橋パールスイさんのおはなし。

（前書き）

警告

これより先は、東方Projectをベースとした私の世界が広がっております。

君の世界のキャラの性格や口調に多少の食い違いがある可能性が十二分に考えられます。

閲覧の際には十分お気をつけてください。それでは。

嫉妬というモノは人を嫉妬するものである。

嫉妬心はおまけに憎悪までも生み出す素敵みすはしなモノである。

その素敵みすはしなのを操る能力の持ち主、水橋パルスィは今日も、明日も、明後日も。渡る者の途絶えた橋を守っている。守っている？

うーん、どちらかと言うと旧都への侵入者を警戒していると言った方が正しいようだ。

「何よ。」

いえ、別に何でもありません。私は今度の文々。新聞のネタになる事を取材しに来た者です。

射命丸さんがねえ、私の事をコキ使うモノですから…。

ああ、いや。申し訳ないです。私の独り言です、お気になさらず。

「ふーん、それで？新聞記者さんが私に何か用なの？」

そうですねえ、まずは…。

「水橋パルスィ、橋の補強作業を開始する。」

こんなのはどうでしょう？

「…貴方…馬鹿なの？ありもしない事を記事にしろって言うの？」

ああ…いや、冗談ですが…お気に触れたなら申し訳ないです、これが文々。新聞のやりかたというか…。

射命丸さんがこれを“ポリシー”と言い張って聞かないんですよ…。

申し訳ございません…。

「ふんっ、貴方達みたいな馬鹿な連中に付き合っている暇は無いわ。私は見回りに行かないといけないの。」

あああ、待つてくださいパルスィさん…！

せめて、せめて何か一つ社に持ち帰らないと射命丸さんにしかかれ
ると言うか…。

その…何か人里や神々、妖怪達に伝えたい事を何でもいいので…！

「…何よ。貴方って人は。」

…申し訳御座いません…。

「……はあ。いいわ、一つだけ答えてあげる。何でもいいわ、質問
して。」

…本当ですかっ！？ありがとうございますっ！パルスィさん！

「何よ…、そんな…喜んだ顔しないでよ…。ちよつと質問に答える
だけじゃない。」

いつ、いえっ。ご協力に本当に感謝しています！

「やめてよ…。私も早く行きたいから、さっさと質問して？」

はっ、はい！
えーっ…！。

—これを、どうぞっ！

「えっ—？」

これはですね…、パルスイさんをこの前人里で見かけたときに貴女がこれを所持していた人を嫉妬していた所を偶然射命丸さんが発見しましてですね…。

「これをパルスイさんにプレゼントしてその時のコメントを貰ってきなさい。」

って射命丸さんに言い渡されたモノで…。

今まで黙っていて申し訳ないです、ですがこれが私の仕事なので…。

「…。」

…。

あ、あの…。

私は、この仕事を引き受けたのは…。

私は…、貴女の事が…パルスイさんの事が…その…。

“好き”……なので…。

「…何よ。…貴方って一体何なのよ…。もっ…。」

申し訳ないです…。

あ…あの…。そのスカーフ…別に、使用しなくても…いいので…。

私の仕事は…もう終了しましたので…。

あつ、あと…最後の言葉は、仕事ではなく…プライベートですから…？

「馬鹿…、これは私が欲しがって…。もうっ。

…今度から仕事とプライベートをごちゃごちゃにするような事はしないで…。

―次は…、私の目を見て……………」

「うーん！いい記事になりそうですねえ！」

…はっ、その声は…！

しゃ、射命丸さん…！？

「いつやあゝ、私の部下がこんな事に首を突っ込んでいたとはですねえ！」

明日の文々。新聞の一面記事ですね…うふふ。「緑眼の妖怪と記者が禁断の恋愛！」なあゝんてねえ！」

…射命丸さん…。

「さあゝて！私の取材は終了ですし、さっそく記事に纏めてきます！」

射命丸さんッ！！

「ひゃっ！」

許しません…許しませんよ…私を…記事のネタにしようと目論んで

いたなんて…！

そのカメラ返してもらいますっ！

「だっ、ダメですよ！このカメラには貴重な画像がつ…！こっ、こらぁ！返しなさいッ！」

「もっつ…」。

……………妬ましいわ…あの男の記者の…………。

…私に対する“愛”が…………。」

―嫉妬というモノは人を嫉妬するものである。

嫉妬心はおまけに憎悪までも生み出す素敵なモノである。

その素敵なのを操る能力の持ち主、水橋みずはしパルスィは今日も、

明日も、明後日も。渡る者の途絶えた橋を守っている。

彼女の首に巻かれているスカーフは、この世の誰のスカーフよりも“愛”と温かさに満ちていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2506q/>

嫉妬

2011年1月26日10時17分発行